

We are proud of Kizugawa-city.

KYOTO KIZUGAWA CITY



VOL.06



京都府木津川市

紳人



ひと粒ひと粒に、
こころを込めて。



1 肥料をいれることで実は大きくなるが、裂果しないように通気性を良くして、熱が籠もらないように管理する。2 袋がけをすることで、病気や害虫、カラスなどから実を守る。また、水分の蒸発を抑え実を守るフルーム（粒の表面の白い粉）が、雨などで流れ落ちるのを防ぐ。3 棚には、青々としたぶどうの葉が一面に広がる。意外にも、たった8本の木からぶどうの実を収穫するという。

ぷっくりと艶やかに育つまで、
甘熟のタイミングを待つ。

内垣農園
うちがき てつや
内垣 徹哉さん

木津川の
肥沃な砂地が育てた
大粒のぶどう

大正以来、大阪柏原の地からデラウェアの苗が伝授されて始まった山城上泊のぶどうづくり。木津川が運ぶ肥沃で水はけの良い砂地は、その栽培に適していた。昭和10年頃には農地面積が約20haとなり、京都でも有数のぶどう産地となつた。当時、20～30軒あつたというぶどう農家は、近年10数軒までに減少したが、山城上泊の木津川沿いには、今も青々とした葉に覆われたぶどう棚が広がつている。

ぶどうは一般的に食べられる品種としては1000種、ワインの品種も1000を超えると言われるほど多種に富んでいる。2006年の市場に登場以来、シャインマスカットは人気の品種だ。





「大粒で甘く、皮ごと食べられて種がないので、今の趣向にあつてているのだと思います」と話すのは、内垣徹哉さん。昭和の初期からぶどう栽培をはじめた祖父の弘治さんから、その栽培技術を学び、現在は農園のほとんどの管理を任せられている。

シャインマスカットは、内垣農園でも出荷数が一番多い。他にも、ピオーネ、巨峰、デラウェア、ネオマスカットなど、栽培品種は多種にわたる。

シャインマスカットは、内垣農園でも出荷

数が一番多い。他にも、ピオーネ、巨峰、

デラウェア、ネオマスカットなど、栽培品種

は多種にわたる。

シャインマスカットは、内垣農園でも出荷

数が一番多い。他にも、ピオーネ、巨峰、

デラウェア、ネオマスカットなど、栽培品種

残つたり、落果するんです。その後、2週間後にもう一度。しっかりと実を太らせるためです。また、実が大きくなつて落果しないように、肥料を入れる量なども調整します。熱がこもらないようにするのも重要ですね」

毎日、ぶどうを一房一房、目で見て触り、実の熟れ具合や害虫が侵入していないか確認しながら、ていねいにぶどう棚を回っています。季節ごと天候や気温などに注意し、微妙なタイミングを見計らしながら、ぶつくりと大粒のぶどうの実が育つのを待つ。手がかかり、育てるのが難しいところにこそやりがいを感じていると言います。

摘芯から収穫まで 手をかけて、ていねいに

実際にどのようにぶどうを育てているのか、年間を通じての栽培の流れを尋ねてみた。枝の手入れは12月から。傷んだ枝などを選定し、暖かくなる3月までは木の休眠期間となる。ぶどうの花が満開になつた5月、種なしにするジベレリン処理を行う。

「甘く熟してくるのを待つて収穫するので、味には自信があります。地元の皆さんにも食べていただきたいですね。色は、緑色より茶緑色のほうが糖度が高く甘みが強いんですよ。粒に張りがあつて艶やかなものを選んでいただければ、良いと思います」と、重量感のある房を見せながら話す。

受け継いだ思いを 祖父から 次の夢へ

出荷は8月に入つてお盆直前から。9月には最盛期を迎え、近隣のスーパーや旬の駅などでも販売している。お客様からは、贈り物として美味しいと声をいただくこともあります。

「ぶどうの木は古くなると、粒のかたちが変異して不揃いになるんです。だいたい5年目から実がとれ始めて、8年目が良いですね。1本の木から500房採れることもありますよ。これからの大仕事は、木の更新を徐々にしていくこと。今後は赤系統のクイーンセブンなど、新しい品種を植えていきたいですね」祖父が大切に育ててきたぶどう畠を受け継ぎながら、次の夢に向かって新たな挑戦が始まる。



内垣農園のシャインマスカットは木津川市ふるさと納税の返礼品です。



寄附額 10,000 円

京都府産
シャインマスカット 約800g

提供 内垣農園 木津川市山城町上狛西作り道 5-2 TEL 090-5979-0447

※写真撮影時以外はマスクを着用しています。

寄附額 15,000 円

京都府産
シャインマスカット 約1.5kg

木津川市
ふるさと納税
WEBサイト



糸人



1 昭和7年の創業以来、三代に渡って山城上狹で織物業を営んできた社屋。当時は事務所として使われていた。アールが美しい建物や門は今も変わらない。2 緯糸を織り込む製織の工程。レビア織機とエア織機の2種類のマシンを織物の特性に合わせて使い分けている。これまでに培ってきたさまざまな折木法を駆使することで、多彩な文様や柄、色彩を織り上げていく。3 原糸は、生地によって撚糸され染色された後、糸繰りされる。その糸の本数・幅を決め、所定の長さに整えるのが、この整経の工程だ。

地球に優しく、
人に優しく。



天然素材の良さを
暮らしの中で感じて欲しい。

小嶋織物株式会社

代表取締役社長 こじま 小嶋 はじめ さん

山城の地が生んだ
織物製品

創業昭和7年、100年近くの歴史を持つ小嶋織物株式会社。麻や綿、木から生まれたレーヨンなど天然素材を用いて布を織り、製品に仕上げるまでの一貫生産で京織ふすま紙、織物壁紙を製造販売し、共に国内でのトップシェアを誇る。

社屋と工場を構える木津川市山城町は、古くは渡来人によって織物の技術が伝えられた地として知られている。木津川周辺では、麻織物の原料となる植物の苧麻（カラムシ）が多く採れた。奈良に近いこともあり、江戸時代から奈良晒（さらし）の需要もあった。明治以降は、生活で使う蚊帳を織る産業が発展し、また、木津相楽地域では相楽木綿が日常着として手織りされ始めた。

立地や歴史的背景からも必然として生まれた、日本一粗い目の天然素材の薄織物。その織物を貼り合わせた京織ふすま紙は、紙製のふすま紙よりも破れにくく丈夫である。

「糸の素材・太さなどのデザインから、糸の染色、経糸を整経して織機でさまざまな色・柄の紙と貼り合わせていく。上から加工することで、新たな表情が生まれる。人の



4



5



6

4 和紙を折り込んだ糸を使い天然素材の質感を活かした織物壁紙でつくられたトートバッグ。ふるさと納税返礼品（寄附額5万円）5 製織された生地と裏打紙を取り扱う裏打ちの工程。様々な生地に合わせて、しわやゆがみがないように確実に貼り合わせる。6 機械化、高速化、高精度化が進む織物製造も、生地の検品では人の目が頼り。少しのキズや汚れでも、経験を積んだスタッフの目にかかるべ、あつという間にチェックされ修正されてしまう。

しかし、昭和以降は、住宅も和風建築から洋風建築へと日本人の趣向も変化し、和室が減少。ふすま紙を取り入れる家も少なくなった。活路を見出したのは海外との取引だ。天然素材の麻や綿がサステイナブルな素材として注目され、自社デザイナーがつくるカラフルで独創的なデザインも受け容れられた。現在、海外からの受注は全売上高の25%を占めるまでになった。

時を超えて、社会に求められるものを

組み合わせて作りあげるのは、他社にはない技術です」代表取締役社長の小嶋一さんはそう話す。分業の多い織物業界・インテリアメーカーの中でも、糸づくりから製織・製品まで一貫生産できる技術力が、小嶋織物の強みなのだ。

時を超えて、社会に求められるものを

組み合わせて作りあげるのは、他社にはない技術です」代表取締役社長の小嶋一さんはそう話す。分業の多い織物業界・インテリアメーカーの中でも、糸づくりから製織・製品まで一貫生産できる技術力が、小嶋織物の強みなのだ。

「天然素材は常に湿度や気温に応じて呼吸している生き物みたいなもの。室内の調湿や保温をしてくれる京織ふすま紙の良さを、できるだけ暮らしの中で実感してもらえる工夫をしています」と話す。

昨今のインバウンドの増加によるホテル建設ラッシュや日本の伝統文化を見直す流れもあり、マリオットホテルやフォーシーズンズなど、全国各所のホテルや店舗の内装にも機能的で品質の高い商品が採用されている。受け継いだ伝統を活かしながら、新しい技術や顧客のニーズに対応すること。その柔軟性と先見性が、時代に求められる商品を生みだす力となっている。

環境にも人にも配慮した企業として

2022年2月からは、SDGs宣言を掲げて、環境に配慮した持続可能な取り

組みを始めた。近年のシックハウス症候群やアレルギー発症の増加に伴い、住宅の内装への天然素材の需要が高まっている。焼却時に有毒ガスが出ない、埋立時にも土に戻りホルムアルデヒドを検出しない、といった環境負荷の少ない天然素材を使用した織物づくりを、今後も目指していく。

「数日後には、コロナ禍でなかなか行き来できなかつたアメリカ行きが控えているんですよ。得意先との商談が、また対面で始まります」と、目を輝かせる小嶋さん。

日本が紡いできた伝統文化を、世界に向けて、京都・木津川市山城から日々発信し続ける。



小嶋織物の京織ふすま紙・織物壁紙は木津川市ふるさと納税の返礼品です。



寄附額 30,000 円

**京都産京織物
織物ふすま紙 4枚セット
(96cm×203cm) ×4枚**



寄附額 150,000 円~

**京都産京織物壁紙
京都いづみ 各種**



NEW**ことことビール（クラフトビール）**

330ml×6本セット

寄附額 20,000 円

酒蔵の経験と技術を盛り込み、それぞれのビールの特徴を最大限に生かしたクラフトビールのセット。

**希少和蜜 日本ミツバチの純粋百花はちみつ**

1瓶/600g

寄附額 17,000 円

京都山城の里からおくる「日本ミツバチ」の純粋和蜜！ 濃厚かつ熟成されたはちみつです。

NEW**ゴルフクラブ券**

ゴルフクラブの調整やシャフトの装着などに利用可能

寄附額 30,000 円～

あなたにとってベストのクラブをつくり上げ、ご提供するゴルフ工房。高精度の計測器で調整します。

NEW**オリジナルクッキー缶**

1缶(12×12cm 約270g)

寄附額 10,000 円

さまざまな味が楽しめるクッキー缶。ちょっとした手土産や自分のご褒美に是非！

**京都みるくサンドクッキー**

18個セット(6個入×3箱)

寄附額 10,000 円

クローバー牧場の「特別牛乳」を使用したクッキー。ミルクのまろやかさとサクッとした食感をお楽しみください。

**ステンドグラス**

縦:約21.5cm×横:約16.5cm×厚み:約1.5cm

寄附額 15,000 円

レトロ調に仕上げるため、ガラスにもこだわり一つ一つ仕上げています。プレゼントや部屋のインテリアに是非。

NEW**山城森林公園
ログハウス 1日宿泊体験券**

月～木のみ利用可能／定員8名

寄附額 50,000 円

木造りの温かみ溢れる空間。独立したリビングスペース、キッチンやシャワースペースも完備。

**元プロロードレーサーが教える
フィッティング券**

自転車フィッティング券 1枚(約120分コース)

寄附額 50,000 円

楽しく、長く自転車ライドを楽しむためにも自分のフォームを見直し、向き合ってみてはいかがでしょうか。

**柿渋染リビングマットM**

両面柿渋染(100cm×200cm/中綿500g)

寄附額 200,000 円

京都・山城の地で140年以上続く柿渋メーカーならではの、柿渋の特長を活かしたリビングマット。

**间鴨蒸ロース**

1枚(約350g)

寄附額 20,000 円

中がレアになったものは珍しく、鮮度の高い鴨だからこそできる素材を生かした蒸しロースです。

＼皆様からの寄附金はこのように使われています／

木津川市ふるさと応援基金の活用事例



「当尾地域石仏の道危険木除去」 に活用しました。

美しい日本の歩きたくなるみち500選のひとつ「当尾の石仏を訪ねるみち」として人気の散策道で、暴風雨により倒木が道を塞いでしまったため、これを撤去し、散策道の整備と観光客の安全を確保しました。

活用金額：10万円（活用希望コース：観光振興事業）

応援基金活用団体

一般社団法人
木津川市観光協会

ホームページ <https://www.0774.or.jp>

これまで木津川市の観光情報発信や観光誘客事業をおこない、活力あるまちづくりに取り組んできました。特に、来訪者が安心・安全に観光資源を楽しんでいただくため、自然環境や景観維持を最優先に考え、引き続き、魅力ある観光資源の磨き上げに取り組んでまいります。

あなたのサポートが、より良いまちづくりにつながります!!



木津川市のファンを大募集!!



木津川市は、土地、人、もの、たくさんの魅力にあふれるまちです。木津川市が発行する「絆人Kizuna-Bito」では、毎号木津川市の魅力的な人たち“絆人”を紹介していきます。絆人の紡ぐストーリーに関心を持ち、木津川市に興味が沸いたら、ぜひ木津川市のサポーターになってください。そして木津川市へお越しください。わたしたちが受け継いだ、大切な多くの宝物を後世に伝えていくために、皆さまの応援が必要です。

木津川市へのふるさと応援基金に関するお申し込み、お問い合わせは



ふるなび



さとふる



地域から日本を元気に!
楽天ふるさと納税

セゾンのふるさと納税

木津川市
ふるさと納税
WEBサイト



木津川市山城地域は、歴史的にも古くから開けた地。木津川の流れがもたらす自然の恩恵や、人やモノの交流が産業を支えてきました。今回取材した方々も、そんな地で代々受け継いできた思いや誇りを持つて、大切に品々をつくっておられました。この冊子を手にされた方々へ、返礼品と共に、まちの魅力や作り手の熱い思いもつないでいくことができたらと思います。（加藤）

昔から、見慣れた風景となっている織物工場とぶどう畠。変わらないのがこのまちの良いところであると思えるようになります。変わらないように見えて、先代からの伝統を受け継ぎながら挑戦もされています。丁寧な手仕事の織物は新しい商品となり海外へも。変わらないけれど新しい。返礼品を通して、そんなまちの雰囲気にも気づいていただけたらと思います。（岩井）

カツチャンカツチャン、生地を織るリズミカルな音。ずつしりと大粒、甘みの強いデラウェア。関東から転居してきた当時の私にとって、五感で感じるすべてが新鮮に映りました。人口増加が著しい木津川市。今後は後継者を募りつつ育成し、まちの発展に繋がって欲しいという気持ちが強まりました。この応援基金によって、山城の歴史や人々が繋いできた技術・想いを全国の方へお届け出来ることを願っています。（佐藤）

編集後記

木津川市をもっと知ってみませんか

木津川市はどこにある？

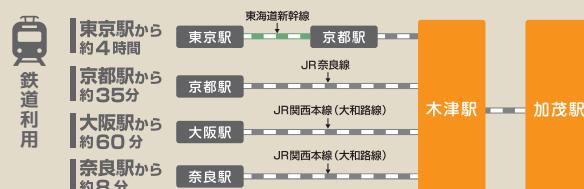
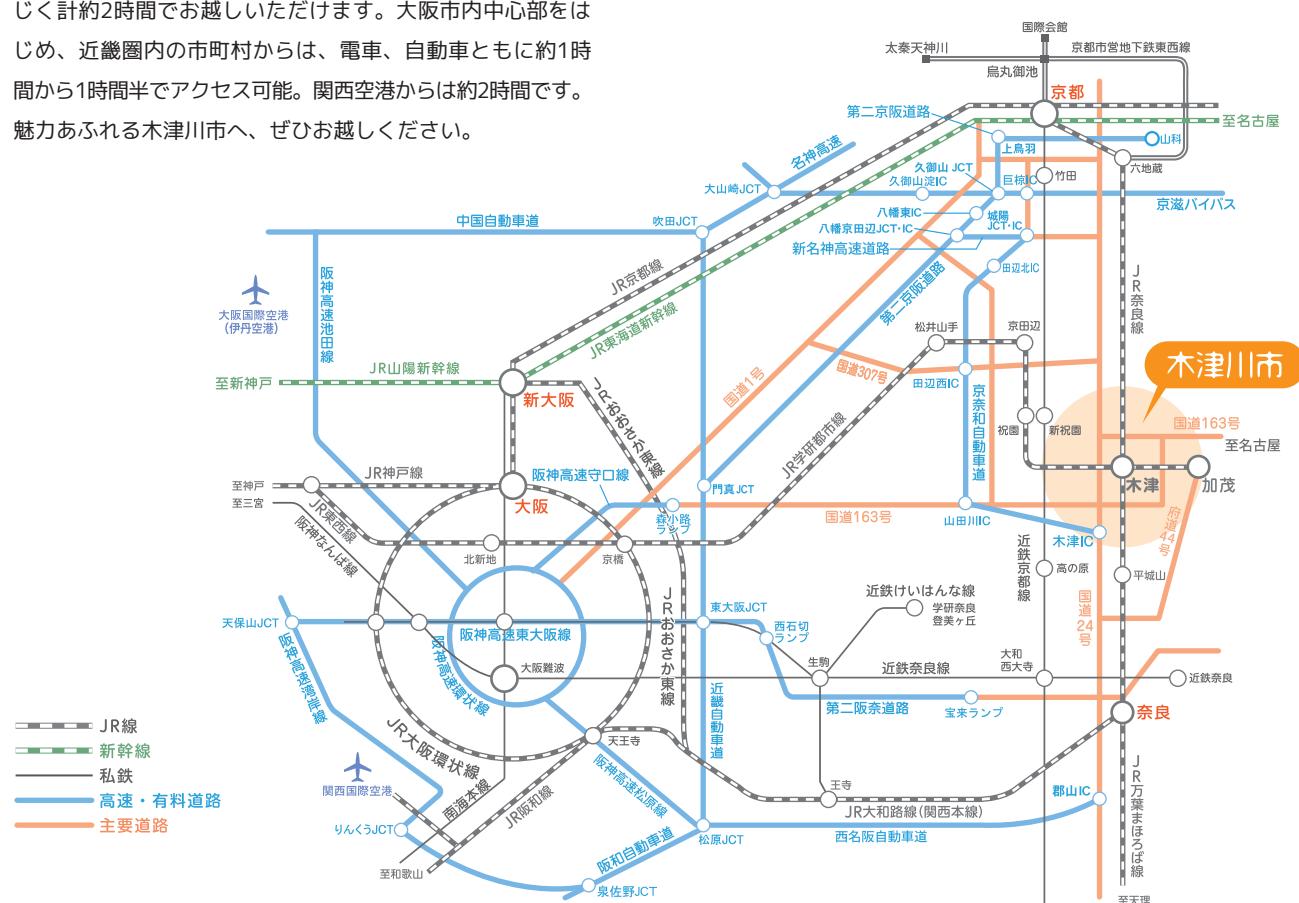
近畿のほぼ中央に位置し、京都・大阪の中心部から約30キロメートル圏内にある木津川市。京都府内では京都市に次ぐ数の国指定有形文化財を有し、豊かな自然・里山が広がっています。また、先人から受け継がれてきた歴史遺産とのどかな景観が楽しめる一方、近年では国家プロジェクトである「関西文化学術研究都市」の一翼を担う都市としての建設が進められています。



木津川市を訪ねてみませんか

木津川市へのアクセス

首都圏からは京都駅まで新幹線、京都駅からJR在来線、近鉄電車に乗り継いで計約4時間、中部地方、中国地方からは同じく計約2時間でお越しいただけます。大阪市内中心部をはじめ、近畿圏内の市町村からは、電車、自動車とともに約1時間から1時間半でアクセス可能。関西空港からは約2時間です。魅力あふれる木津川市へ、ぜひお越しください。



*上記の路線図の一部路線、駅やインターチェンジは省略しています。